

がんの親を持つ子どもへのケア

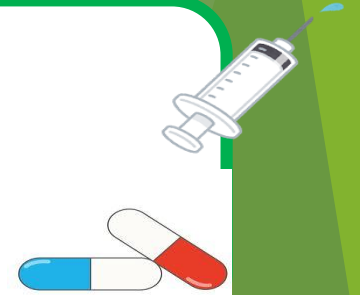
お子さんと病気について話せていますか？

がんを子どもに伝えることは

親と子のオープンなコミュニケーションの機会 となります



- 子どもにショックを与えたくないから言えない
- これまで通りの生活を送りたいのにできない
- 手術の後で身体が思うように動かない
- 手術の傷や化学療法による脱毛をどうしよう



家族の信
頼

子の
不安
軽減

家族と
治療
する

他・・・

疎外感

- どうしてママが家にいないのかな？
- 何か心配なことがおきている？
- “がん”っていう病気らしい。うつるのかな？
- さみしいな。どうして何も教えてくれないの？



がんを子どもに伝えることは

親とともに困難な状況に乗り越えていく力を 培う機会

不安 責める



- ・何か親は隠し事をしているのではないか？
- ・よくないことが起こっているに違いない・・・
- ・自分が悪いことをしたからだ・・・
- ・良い子にしていればママの病気はよくなるかも？



気遣い

協力的

支援的

他・・・

がんについて伝えられた直後の反応

- ・泣く 怒る すねる
- ・戸惑う 距離を置こうとする・・・



とまどい

がん患者を親に持つ子どもの情緒、 行動の問題

がん患者とその子どもに関する海外の調査報告

- ▶ がん患者を親に持った子どもは、おおむね心理・社会的な問題はないものの、わずかに内向性の問題を持つリスクが高い。
- ▶ 両親がつらいと感じている場合に、その子どもは内向性が高い行動をとる。
- ▶ 家族の結束の弱さは子どもの外向性を、母親の抑うつ状態は内向性を助長している。

* 内向性：孤独、内気など

外向性：行動的、社交性など

国内の現状についての報告

- ▶ 対象：乳がん患者130名（30～52歳）とその子どものうち、協力が得られた7歳以上の子ども21名
- ▶ 調査方法：情緒・行動の問題を質問紙を用いて調査
- ▶ 結果：約半数の子どもが自身の情緒・行動について総合的に「問題とを感じる」とした一方で親から見た子どもの総合評価では「問題とを感じる」とした者は約15%しかなく、親子で差があることが分かった。

ピンチを成長のチャンスに！！

▶ 親とともに病気に立ち向かう経験から 子どもが学ぶこと

経験すること	学ぶこと
親がぎりぎりの状態で頑張っている姿に接する	柔軟性
親の特別なニーズを尊重する	寛容
親の世話をする	思いやり
親がゆっくりとしか動けないときは待つ	忍耐
病気に立ち向かう親のありのままの姿を見る	自己愛
手伝いをする	チームワーク
自分で何とかやっていく	自立
親の病状の一進一退に対処する	粘り強さ／回復力

愛知県がんセンターにおける 子どものケアへの取り組み

- ▶ CLIMB®プログラム（2012年～1回/年）
アメリカのThe Children's Treehouse Foundation
が開発した（がんを持つ親の子どものための）
グループ・サポートプログラム。6～4回1クール
のグループ活動。小学生対象。
- ▶ One day kids プログラム（2012年～夏休み・
春休み）CLIMB®プログラムをもとに作成した
当院オリジナルプログラム。小学生対象で
がんのお勉強と病院探検を行う1日完結型。

CLIMB®プログラムの紹介

- ▶ CLIMBは、心理療法ではなく、心の健康の増進という原則に基づいている。
- ▶ その目的は、子どもの持っている力を引き出し、親の病気に関連するストレスに対処していくための能力を高めることにある。

- ①子どもが親のがんにまつわる自分の感情を理解し、（自分自身に対して、また自分を世話してくれる人に対して）表現するための能力を高める。
- ②周囲の人たちに感情を伝える方法を学ぶ。
- ③感情に対処すること促進する。

CLIMB®の構成とフォーマット

	テーマ	今日の感情	活動
1	自分自身やがんにまつわる話を共有し、孤立感を弱める	幸せ・楽しい	自分について
	がんという病気のその治療について知識を得る	混乱	がんって何？
2	悲しみの感情を表現し緩和する	悲しみ	気持ちのお面作り
3	子どもの持っている強さを引き出し不安を緩和する	怖い・不安	強さの箱作り
4	怒りの感情を適切に表現し対処する方法を考える	怒り	怒りバイバイさいころ
	家族とのコミュニケーションを手助けする	気持ちを伝える	お見舞いカード

CLIMB®プログラム

実際の様子

お見舞いカード
づくり



がんの
お勉強



強さの箱作り

気持ちの
お面作り



One day kidsプログラム 病院探検の様子



CLIMB®プログラム参加者の声

- ゆっくり自分に目を向けてもらえる時間を与えていただいて、自信を取り戻したのかなと思いました。クライムでの友達は特別な友達ようです。
- 飛行機を使っでの参加でしたが、お金にかえられないたくさんの勇気と、同じ思いで過ごしている方々と会話ができ共感でき、子どもたち以上に、私の心の穴がふさがった思いでいっぱいです（夫が治療中）
- 子どもはプログラムを重ねるごとに新たな成長がみられ、最終回の後ちょっとした事にも、私に手を貸してくれたり、とてもうれしく感じています。
- 病気のことを学ぶことで、私との関係がもっと深まったように思いますし、子どもの心から不安が取りのぞかれ、感情の処理・発散も自分なりにできるようになったかなと思います。愛情を持って接してくださったスタッフの皆さんに感謝の気持ちでいっぱい です。この経験は子どもにとって、とても大切な財産になるでしょう。
- 気心の知れた仲間ができました。この活動の普及定着に期待してます（妻が治療中）



▶ お子さんとオープンに病気の話ができれば、家族の絆が強まり、一緒に病気に向き合えるのではないのでしょうか？

お子さんと病気のお話ができず悩まれている方は
看護師にご相談ください。